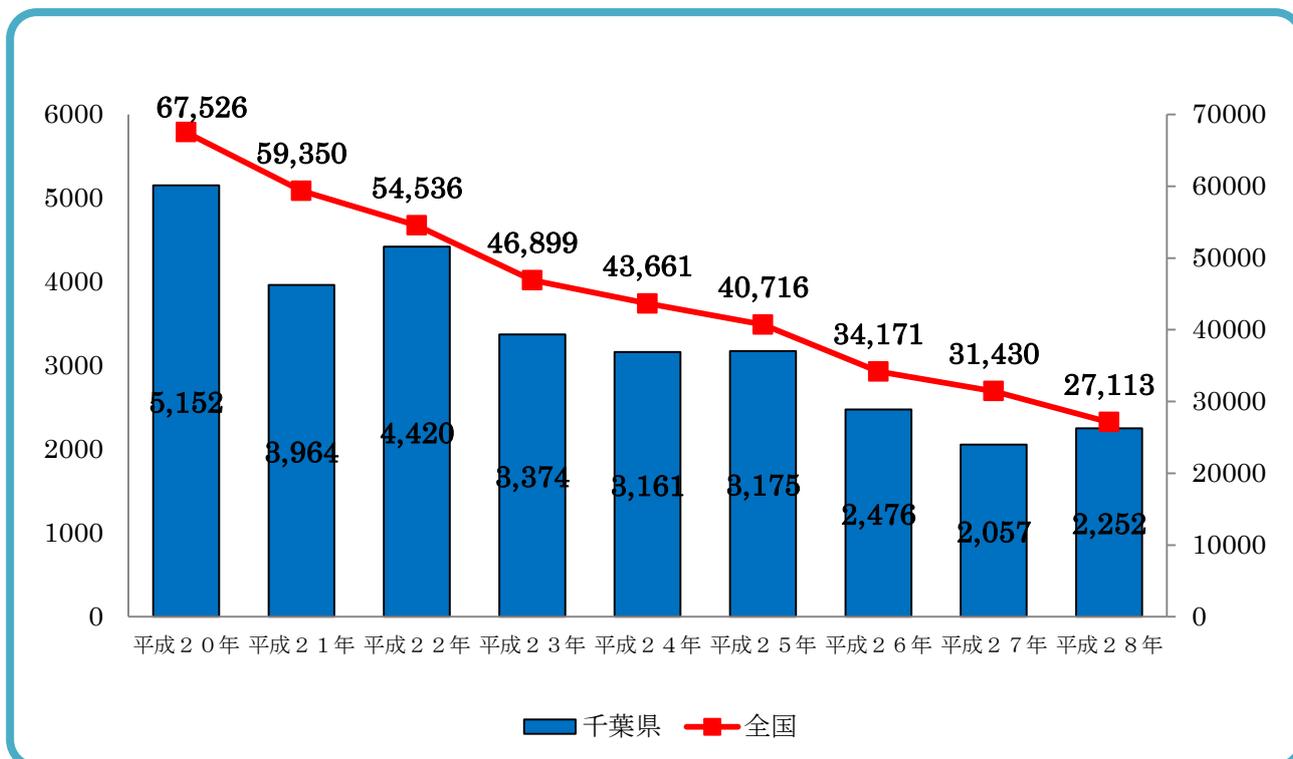


空き巣の分析結果(平成28年中)

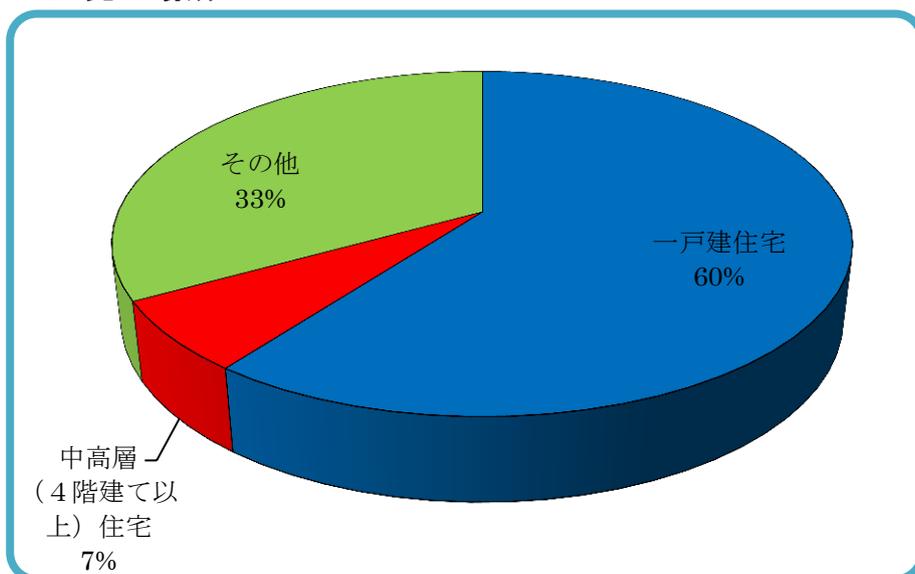
1 発生状況

認知件数の推移(平成20年－平成28年)



平成20年以降の認知件数を比較すると、全国的には毎年減少し、平成20年に比べ平成28年は59.8%減となった。県内では平成22年にやや増加したものの概ね減少傾向にあり、平成20年に比べ平成28年は56.3%減であるが、前年比では195件増加、9.5%増とやや増加し、全国で2番目に多い認知件数となった。

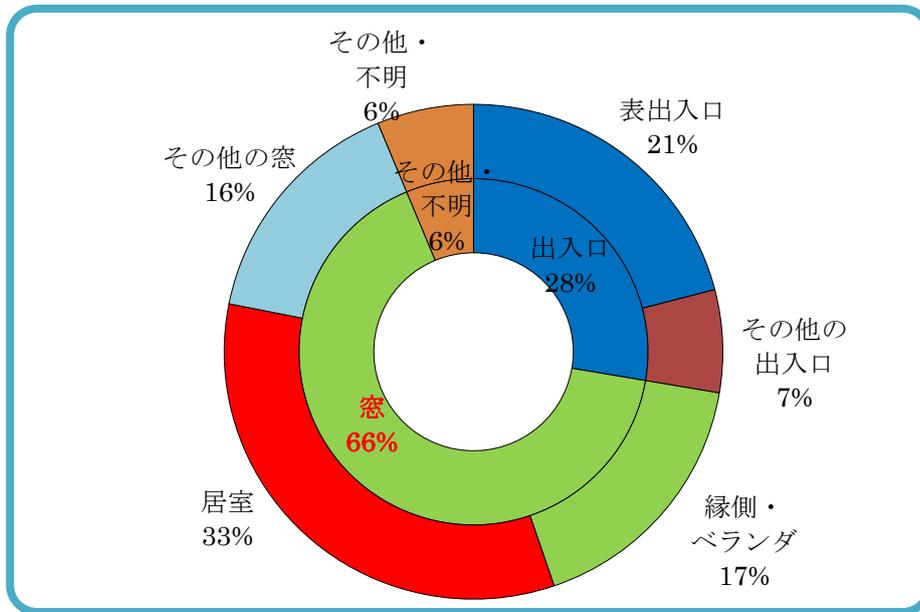
2 発生場所



6割が一戸建て住宅で発生。中高層住宅での発生はわずかである。

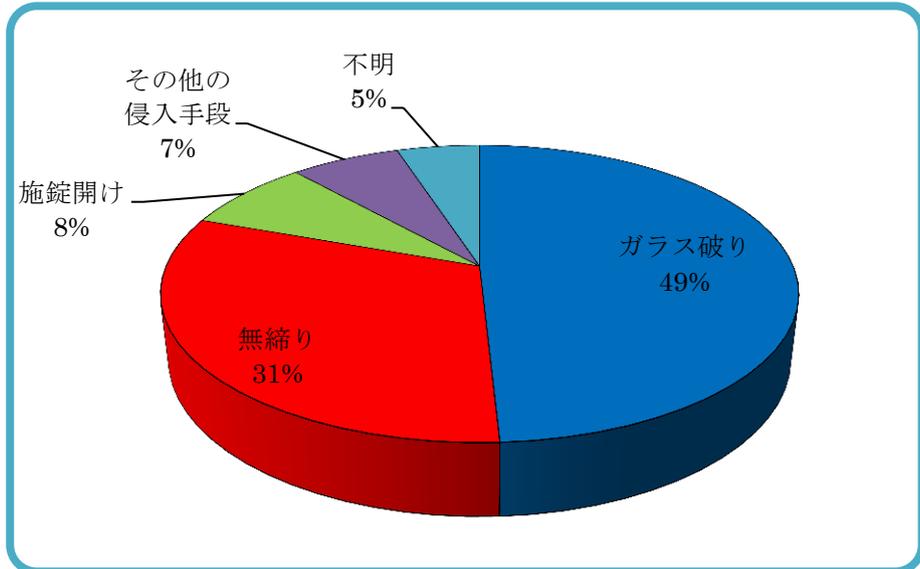
その他の住宅とは、例えば、3階建て以下の共同住宅や長屋建て住宅、テラスハウス等の住宅をいう。

3 侵入口



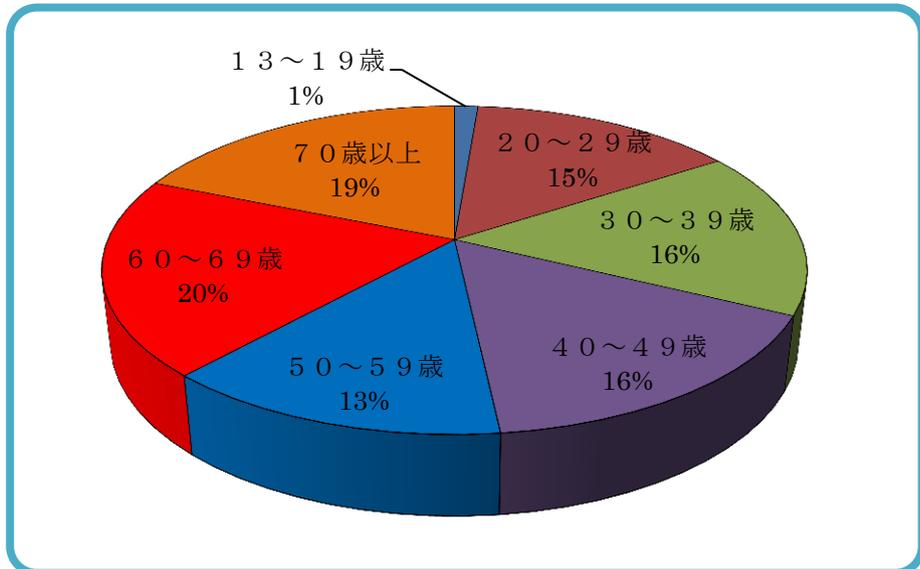
およそ7割が窓から侵入。
居室の窓から侵入が3割で最も多い。

4 侵入手段



5割がガラス破りで最も多く、3割が無締り箇所から侵入。合い鍵やサムターン回し等の施錠開けによる侵入は1割である。

5 被害者年齢



60歳代と70歳以上の被害者がやや多い。

【空き巣発生署別認知件数(平成28年中)】

